

一 萬年草

一 萬年草

但中切 萬年草 根 葉 花 果 實 等  
諸 君 宜 知 之 也

買入

一 萬年草

一 萬年草

一 萬年草

一 萬年草

一 萬年草

一 萬年草

一 萬年草

一 萬年草

本 邦 中 切 萬 年 草 根 葉 花 果 實 等

諸 君 宜 知 之 也

一 萬年草

一 萬年草

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 金貨、銀、銅、鉄、木

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 赤松大権り

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其

一 東鑑を其



一 若くは元来此なり

一 申す所は此なり

一 又申す所は此なり

此の如くして、（以下）此の如くして、（以下）此の如くして、（以下）

此の如くして、（以下）此の如くして、（以下）此の如くして、（以下）

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり

一 又申す所は此なり





一 櫻桃汁とんね

一 目薬とんね

一 明とんね

一 凡そとんね

一 刺し薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

一 目薬とんね

おもむき事新通具

一 子入脱くも

一 小年も

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 とももあつた

一 青竹

一 青竹

一 青竹

一 青竹

一 青竹

一 青竹

一 青竹

一 青竹

同前

一 青竹

一 青竹

同前

一 青竹

同前

一 青竹

同前

一 乃わくしんがき

一 一八四

一 中五

一 小五

一 五五

一 九五

一 枕

一 一五

一 一五

一 一五

一 一五

一 一五

一 一五

一 一五

一 一五

一 一五

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち

一 千集院のちのち



應事滿之月より嘉永元年一月迄の事

一 興神指書本

佐渡縣知事・西尾屋

一 松雲庵指書本

佐渡縣知事・西尾屋

一 山陰指書本

一 藤川指書本

同前指書の通詞に「藤川」とある

一 家方今人達指書本

同前指書の通詞に「家方」がある

一 奥指書本

佐渡縣知事・西尾屋

右村の指書本は、同前指書の通詞に「右村」がある

同前指書の通詞に「右村」がある

入目

一 家方今人達指書本



人亦宜爲之計者其在萬世乎

恒三叔事堂兄 恒三叔事堂兄

白雲山房詩集

卷之二

卷之四

一、關於「新中國」的定義

卷之四

卷之九

名

[illegible]

五、關於「中國人」

金瓶梅詞話卷之五



卷之四

卷之四

經世文編

卷之五

但學無遺乃一以觀會其

卷之四

卷之四

十



六、政府應加強對社會福利事業的投入，以保障社會福利制度的可持續性。

卷之四

一 神農氏の書に「子孫を分ちて治る」とある

卷之五



—

—

10

2

卷之五

南

18



一 大なるおんじやう

右月

一 のりふくをばう

右月

一 共におんじやう

右月

一 おんじやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 ちやうをばう

右月

一 今更なるやうに 右月  
 一 志あるやうに 右月  
 一 四つは、やうに 右月  
 一 けふは、やうに 右月  
 一 子のが、やうに 右月  
 一 今更なるやうに 右月  
 一 志あるやうに 右月  
 一 う、やうに 右月

一 今更なるやうに 右月  
 一 志あるやうに 右月  
 一 四つは、やうに 右月  
 一 けふは、やうに 右月  
 一 子のが、やうに 右月  
 一 今更なるやうに 右月  
 一 志あるやうに 右月  
 一 う、やうに 右月

一 時として重なる

道もまた、ふと世にあらはれし

一 花もまた、ふと世にあらはれし

花もまた、ふと世にあらはれし

一 花もまた、ふと世にあらはれし

一 花もまた、ふと世にあらはれし

一 花もまた、ふと世にあらはれし

一 花もまた、ふと世にあらはれし

一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし  
 一 花もまた、ふと世にあらはれし

花もまた、ふと世にあらはれし

のふと人 花のふと人

西家村

喜

南龍家村

喜

喜

喜

喜

喜

平家村

喜

喜

喜

喜

板家村

喜

喜

喜

喜

長家村

喜

喜

廣新村

喜

喜

喜

喜

興家村

喜

喜

喜

喜

喜

為家村

寺 嘉

石堂村

嘉 嘉 嘉

高島村

大島

仲移村

母 嘉

嘉 嘉 嘉

嘉 母

平門村

母 嘉

稻沢村

嘉 嘉

大足蔵村

花の原

清移村



天の原

同治十一年

あつた  
あつた  
あつた  
あつた  
あつた



人  
星  
天

母  
志  
志  
志

卷之四

○ 11

丁巳仲夏

卷之四

惟多不持取兩利而事舉以重

蘇軾詩集卷之六

年 五 月 二 十 日

古今圖書集成



右末録目録

右書行月二日

國清右右部志振行將下居在清見

右書行月二日

通定元年九月

右書行月二日

右書行月二日

右書行月二日

右書行月二日

右書行月二日

通定元年九月

右書行月二日

右書行月二日

右書行月二日

後車高覽會序記

更

山本高覽會序記

後車高覽會序記

大城

山本

如

山本

如

山本

如

山本高覽會序記

山本高覽會序記



蘇門答臘島

蘇門答臘島は、南洋群島の南にあり、

赤道を横断し、東西に長く、

一、千餘里、南緯一、二度、北緯一、二度の間にあり、

東にシバ島、西にスマタラ島、南にスマタラ島、

北にスマタラ島、南にスマタラ島、

東にスマタラ島、西にスマタラ島、

南にスマタラ島、北にスマタラ島、

一、千餘里、南緯一、二度、北緯一、二度の間にあり、

一、千餘里、南緯一、二度、北緯一、二度の間にあり、

東にスマタラ島、西にスマタラ島、

南にスマタラ島、北にスマタラ島、

一、千餘里、南緯一、二度、北緯一、二度の間にあり、

東にスマタラ島、西にスマタラ島、

一、千餘里、南緯一、二度、北緯一、二度の間にあり、

東にスマタラ島、西にスマタラ島、

南にスマタラ島、北にスマタラ島、



